

令和5年度

# 決算報告書

第18期事業年度

自 令和 5年4月 1日

至 令和 6年3月31日

公立大学法人 九州歯科大学

令和5年度 決算報告書

1 収支計画

(単位:百万円)

区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	備考
費用の部	3,901	3,616	△ 285	
経常費用	3,901	3,611	△ 289	
業務費	3,360	3,153	△ 206	
教育研究経費	401	348	△ 52	(注1)
診療経費	852	733	△ 118	(注2)
受託研究費等	12	8	△ 4	(注3)
人件費	2,093	2,062	△ 31	
一般管理費	536	452	△ 83	(注4)
(減価償却費 再掲)	(230)	(226)	(△ 3)	
財務費用	5	4	△ 1	(注5)
雑損	-	1	1	(注6)
臨時損失	-	4	4	(注7)
収益の部	4,068	4,308	240	
経常収益	3,587	3,627	39	
運営費交付金収益	1,717	1,758	40	
授業料収益	400	403	2	
入学金収益	62	65	2	
検定料収益	8	9	1	(注8)
附属病院収益	1,200	1,158	△ 41	
受託研究等収益	12	9	△ 2	(注9)
補助金等収益	42	51	9	(注10)
寄附金収益	23	47	23	(注11)
財務収益	0	0	0	
補助金等収益(資産見返補助金戻入)※	76	73	△ 2	
雑益	44	50	5	(注12)
臨時利益	480	681	200	(注13)
当期純利益	167	692	525	
当期総利益	167	692	525	

(注記) 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満については切り捨て表示しています。

※当事業年度より改訂後の地方独立行政法人会計基準等の適用に伴い、令和4年度まで資産見返補助金戻入として計上されていた金額は、令和5年度より補助金等収益として計上されております。

○予算額と決算額の主な差異について

- (注1) 教育研究経費については、主として水道光熱費が予算金額に比して48百万円減少したため、予算金額に比して52百万円減少しました。
- (注2) 診療経費については、主として材料費が予算金額に比して52百万円、水道光熱費が予算金額に比して32百万円、診療機器・備品費が予算金額に比して27百万円減少したため、予算金額に比して118百万円減少しました。
- (注3) 受託研究費等については、受託研究等の獲得金額が当初見込みを下回ったことで、受託研究費を財源とした支出が減少したことにより、予算金額に比して4百万円減少しました。
- (注4) 一般管理費については、主として水道光熱費が予算金額に比して24百万円、委託費が予算金額に比して13百万円減少したこと、また施設整備補助金による工事費用が当初見込みを下回ったことにより、予算金額に比して83百万円減少しました。
- (注5) 財務費用については、主としてリース資産のリース開始が年度後期に偏ったことで、支払利息が当初見込みを下回ったことにより、予算金額に比して1百万円減少しました。
- (注6) 雑損については、主として診療費の返還を行ったことにより、予算金額に比して1百万円増加しました。
- (注7) 臨時損失については、主として病院棟の改修工事等に伴う固定資産除却損が発生したことにより、予算金額に比して4百万円増加しました。
- (注8) 検定料収益については、入学志願者が当初見込みを上回ったことにより、予算金額に比して1百万円増加しました。
- (注9) 受託研究等収益については、受託研究費を財源とした支出の減少に伴って収益化額が減少したことにより、予算金額に比して2百万円減少しました。
- (注10) 補助金等収益については、主として福岡県医療機関物価高騰対策支援金を受給したこと等により、予算金額に比して9百万円増加しました。

- (注1 1) 寄附金収益については、寄附金の獲得金額が当初見込みを上回ったことで寄附金を財源とした支出が増加し、それに伴って収益化額が増加したことにより、予算金額に比して23百万円増加しました。
- (注1 2) 雑益については、主として間接経費収益が予算金額に比して3百万円増加したことにより、予算金額に比して5百万円増加しました。
- (注1 3) 臨時利益については、主として中期目標期間終了に伴い、運営費交付金債務が全額収益化されたことにより、予算金額に比して200百万円増加しました。

令和5年度 決算報告書

2 資金計画

(単位:百万円)

区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	備考
資金支出	4,401	4,278	△ 122	
業務活動による支出	3,634	3,381	△ 252	(注1)
投資活動による支出	601	328	△ 273	(注2)
財務活動による支出	92	101	8	
翌年度への繰越金	73	467	394	
資金収入	4,401	4,278	△ 122	
業務活動による収入	3,969	3,760	△ 209	
運営費交付金収入	1,656	1,715	58	
授業料収入	383	389	6	
入学金収入	62	65	2	
検定料収入	8	9	1	(注3)
附属病院収入	1,200	1,158	△ 41	
受託研究等収入	12	11	△ 1	(注4)
補助金等収入	578	335	△ 242	(注5)
寄附金収入	23	27	3	(注6)
その他の収入	44	48	4	
投資活動による収入	0	0	0	
財務活動による収入	-	-	-	
前年度からの繰越金	432	518	86	

(注記) 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満については切り捨て表示しています。

○予算額と決算額の主な差異について

- (注2) 投資活動による支出については、主として施設整備補助金による工事の支出が当初見込みを下回ったことにより、予算金額に比して273百万円減少しました。
- (注3) 検定料収入については、入学志願者が当初見込みを上回ったことにより、予算金額に比して1百万円増加しました。
- (注4) 受託研究等収入については、受託研究等の獲得金額が当初見込みを下回ったことで、予算金額に比して1百万円減少しました。
- (注5) 補助金等収入については、主として施設整備補助金による工事の支出が当初見込みを下回ったことに伴って補助金の交付額が減少したため、予算金額に比して242百万円減少しました。
- (注6) 寄附金収入については、寄附金の獲得金額が当初見込みを上回ったことにより、予算金額に比して3百万円増加しました。

○キャッシュ・フロー計算書の額と決算額の主な差異について

- (注1) 業務活動による支出の決算額は、キャッシュ・フロー計算書の額3,278百万円に、当期末未払金322百万円を加算し、前期末未払金219百万円を減算して算出しています。
- (注2) 投資活動による支出の決算額は、キャッシュ・フロー計算書の額524百万円に、当期末未払金23百万円を加算し、前期末未払金220百万円を減算して算出しています。
- (注5) 補助金等収入の決算額は、キャッシュ・フロー計算書の額351百万円に、当期末未収金225百万円を加算し、前期末未収金240百万円を減算して算出しています。